東尾道駅無人化撤回・エレベーターの設置を

東尾道駅の利用者・地域住民に丁寧な説明を求める

尾道民報

日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発　行】
岡野長寿
（0845-22-2596）
三浦とおる
（0848-48-5044）

三浦市議は、先週お伝えしたJR西日本との駅の無人化計画の撤回を求める交渉の中で明らかになった「エレベーターの設置条件をもとにエレベーターの設置要求」と「障がい者等の車椅子の利便性の向上」をJR西日本に求めました。

東尾道駅は1日の利用者3000人超エレベーターの設置条件を満たしている。エレベーターの設置を求める。

JR西日本は、福山市議団、大平前衆議院議員、三浦尾道市議との交渉の中で、東尾道駅の一日あたりの利用者が3000人を超えていることを明らかにしました。山陽本線では福山市の備後赤坂駅も一日の利用者が3000人を超えており現在エレベーター設置について福山市と交渉中であることも明らかになりました。三浦市議は「東尾道駅にもエレベーターの設置」を求めましたが「東尾道駅にエレベーターの設置については尾道市と協議していない」との返答があり、東尾道駅についても備後赤坂駅同様に設置に向けた検討をするよう要求をしました。

JR側からは「尾道市より要望があれば対応する」と返答がありました。今後は市当局にエレベーター設置に向けたJRとの話し合いを行うように要求していきます。さらに、無人化に伴う弊害については大平前衆議院議員が、安全性や利便性が悪くなることを、利用者や地域住民に対して説明が必要でないかと、国土交通省の国会答弁を引用してJR側に求めましたが、JR側は説明会の予定はないと受け付けませんでした。三浦市議も無人化に伴って「障がい者や車椅子の高齢者のスロープの利用が無人化で時間がかかるようになるのではないか」と質したところ「障がい者等の車椅子の人の利用については予約して頂くようになっている」との返答があり、政府が推進している公共交通機関におけるノーマライゼーション政策に反していると指摘して、改善を求めました。

「図書館の先生の抜本的増員を！」

―文教委員協議会で岡野長寿市議が提案―

市教委が「現状」として説明した数値

	平成30年6月	令和元年6月	令和元年12月
子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教員	66.2 %	68.9 %	72.6 %
時間外勤務が月80時間を超える教職員	16.2 %	7.2 %	4.7 %

2月6日文教委員会は協議会を開催し、「学校における働き方改革取り組み方針」と「通学路交通安全プログラムの進捗」について説明を受け、質疑を行いました。

岡野市議は、事務職員を市費で配置したこと等を評価しつつも、部活動指導員が3名にとどまっていることは不十分でさらに増員することを要求、また、関連して、司書も5名にとどまっていては司書が本来の職務を果たせない、各学校に専任の「図書館の先生」がいなければこれからの子どもたちの学習を支援することにはならないと、予算化を強く要望しました。

なお、上の表は教員の多忙化が改善しているとして示されたものですが、ドリルや漢字ノートなど先生が家に持ち帰っているものが増えているのではないかとの疑念もあり、今後質すことにしています。

尾三地域労連第25回定期総会

最低賃金1500円でくらしの改善を

2月9日（日）に尾道市総合福祉センターで尾道三原地域労働組合総連合の第25回定期総会が行われ、三浦市議も参加いたしました。三浦市議はあいさつの中で「消費税増税に伴うポイント還元で電子マネーが多く使われている。電子マネーを使える人とそうでない人で格差が広がっている。本来還元が必要な人に還元されていない」と指摘して、連帯してアベ政権を退陣に追い込もうと呼びかけました。また、来賓の方々から「消費税増税後生活が苦しくなっている」「多くの零細企業、商店が廃業に追い込まれている」「ワーキングプアの改善を」「生活保護費の引き上げを」と訴え、今年こそアベ政権を退陣に追い込もうと連帯の挨拶を行いました。

引き続いて広島県労連の門田議長より「最近の情勢と労働組合の果たす役割」についての提案の中で「2020春闘。大幅賃上げと最賃1500円でくらしの改善」をテーマに最低賃金の計算の仕方についての学習をして、最低賃金1500円を目標に春闘を闘っていくことを確認しました。